



2007年がん対策基本法が施行され、緩和ケアは非常に注目されるようになりました。岐阜市民病院をはじめとした岐阜県内の各医療機関でも、緩和ケアに対する様々な取り組みが始められています。特にがん診療連携拠点病院では緩和ケアチームが、がん患者さんの様々な症状緩和のために活動しています。

緩和ケアとはどんなものですか？

A WHO（世界保健機関）では2002年に緩和ケアを「がんなどのいのちに関わる病気で苦しんでいる患者さんとそのご家族に、痛みなどの“からだ”の症状だけでなく“こころ”や社会的な問題（苦痛）に対して総合的な関わりを、がんが診断されたその日から早期に行うこと」と定めています。また、「がんによるさまざまな苦痛を予防・軽減することで、患者さんががんになる前の生活に少しでも近づけるように援助する方法」とも示されています。法律の施行後、いつでもどこでも切れ目なく、がんの苦痛（身体とこころのつらさ）に対する医療が受けられるような緩和ケア体制作りが始められています。

緩和ケアチームとはどんなものですか？

A 当院をはじめとする県内の7つのがん診療連携拠点病院では、緩和ケアチームが患者さんの苦痛を取り除くために活動しています。当院では、平成16年から緩和ケアチームを立ち上げ、主治医や病棟看護師とともに患者さんのつらい症状を取り除いています。同時に、放射線科医、麻酔科医、栄養士、リハビリテーション技師などさまざまな専門家と多職種のカンファレンス（会議）を行い、より専門的なアドバイスが出来るように心がけています。緩和ケアチームが関わる患者さんは、主に当院入院中の方が対象ですが、末期だけでなく治療中の方にもまで及びます。また、地域の開業医と協力し、在宅緩和ケア（自宅で緩和ケアを行う）を支援する試みも始めています。平成21年には、当院の医師と地域の先生方で緩和ケア研修会を開催し、普及にも取り組んでいます。

緩和ケアチームの診察を受けるにはどうしたら良いのですか？

A 当院に入院中の患者さんを中心に緩和ケアを提供しております。原則として、主治医・担当看護師から診療依頼があった場合に緩和ケアチームが援助を開始します。他医療機関に受診されている患者さんは、主治医から地域連携部を通じ当院の緩和ケアチームに診療依頼いただくようお願いしています。まずは主治医にお尋ね下さい。

モルヒネを使うと中毒になるのですか？

A がんの痛みに対して、モルヒネをはじめとする“医療用麻薬”は非常に有効です。息苦しさを緩和するためにも用いられ、緩和ケアには欠かせないお薬と考えられています。最近覚せい剤や合成麻薬の問題が報道され話題になっていますが、“医療用麻薬”はこれらの有害な薬剤とは全く異なります。痛みや息苦しきなどの苦痛がある患者さんに対してモルヒネなどの“医療用麻薬”を使っても、麻薬依存のような中毒症状を認めることはありません。「モルヒネを使うと中毒になる、一度使うとやめられなくなる（依存）から心配・・・」というお話を伺うことがありますが、これは誤った解釈です。医師の指導のもと正しい知識を持って使用すれば、モルヒネなどの“医療用麻薬”は、緩和ケアにとって大きな福音をもたらしてくれるお薬なのです。

今月のドクター



石黒 崇氏
岐阜市民病院 緩和医療科部長
呼吸器科・腫瘍内科兼
（いしぐろ たかし）

平成11年岐阜大学医学部卒業
平成11年7月より当院勤務し現職
日本内科学会認定医・日本呼吸器学会専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医・日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医